

地域母子保健福祉情報紙 No.273

公益社団法人 母子保健推進会議

# 親子保健

お や こ ほ け ん

定款第 1 章第 3 条 目的（抜粋）  
国及び地方自治体  
関係諸団体と連携協力して  
母子保健の重要性を啓発し  
母性の健康を守り たかめ  
心身ともに健全な児童の  
出生と育成に寄与してまいります

## 8020の里賞 コロナ禍でも工夫し連携して啓発活動を



左から審査委員長の山本秀樹先生、小前みどり先生、清水和正課長代理、佐藤拓代会長、原澤勇理事長

令和3年度「健やか親子21全国大会」が昨年11月4日（木）～5日（金）、いわて県民情報交流センター（岩手県盛岡市）と東京の収録会場と結びハイブリッド方式にて開催された（主催：厚生労働省・岩手県・盛岡市・母子愛育会・日本家族計画協会・母子保健推進会議）。同大会に併設して、本会議および全国母子保健推進員等連絡協議会の共催により『母子保健推進員等及び母子保健関係者全国集会』をオンラインにて実施し、その中で「健やか親子21-8020の里賞-（ロッセ賞）」の表彰式を行った。同事業は、乳幼児期から

の健康づくりの重要性の啓発と地域組織の育成支援を目的に創設したもので、当該活動の一層の活性化と、同様の取組が広がることを期待して行っているものである。

### 【審査基準】

1. 地域の課題やニーズを汲んだテーマの活動であり、より多くの対象者に啓発することに努めていること。

2. 行政、専門職、関係機関と連絡が密であり、今後活動の発展に期待ができること。

3. 複合的な取組、または活動（制作物含

む）に創意工夫があり、対象者の興味、関心を惹き行動変容に努めていること。  
4. 地元の特産、特徴を取り入れるなど、地域の活性化や新たな連携の構築、拡大につながっていること。

\*上記1～4のうち、2つ以上の要件を満たしていること。

### 【審査委員】

- 委員長 山本 秀樹 日本歯科医師会常務理事
- 委員 小前みどり 日本歯科衛生士会常務理事
- 清水 和正 株)ロッセ渉外課課長代理
- 佐藤 拓代 母子保健推進会議会長
- 原 澤 勇 母子保健推進会議理事長

主催：公益社団法人 母子保健推進会議  
後援：公益社団法人 日本歯科医師会  
公益社団法人 日本歯科衛生士会  
協賛：株式会社ロッセ

令和3年度を受賞団体は2頁の表のとおりである。本稿では、優秀賞3団体の受賞活動の概要を中心に紹介する。なお、優秀賞受賞団体には、表彰状のほか、副賞として組織育成費5万円とキシリトールガム（対面で表彰式を行う場合は会場までの1人分の往復旅費もお支払い）、佳作賞受賞団体には、表彰状のほか副賞として図書プリペイドカード5,000円分とキシリトールガムを贈呈した。



盛岡市歯科医師会・岩手県歯科衛生士会盛岡支部の寸劇と紙芝居を併せた活動

### 今月のページ

8020の里賞 コロナ禍でも工夫し連携して啓発活動を	1～3
健やか親子21全国大会「表彰状授与の会」開催	3
紙上セミナー：8020の里づくり「むし歯を考える」	4～5
長引く新型コロナウイルス感染症は家庭にも～DV、虐待、女性の自殺の増加～	6
全国の乳児院で暮らす子どもたちに紙オムツを届けたい！	7
10か国語のリーフレットで日本での妊娠・出産・子育てを応援／編集帖	8

優秀賞3団体の活動紹介

盛岡市歯科医師会・

岩手県歯科衛生士会盛岡支部

- ・「歯と口の健康週間」事業
- ・幼稚園・保育園における啓発活動

<活動の概要>

- ・平成8年、県保健所から歯科衛生士会へ幼稚園児への歯科保健指導の依頼があり、手づくり紙芝居を制作し上演。さらに広く啓発をと盛岡市歯科医師会との共催事業とし、幼稚園・保育所に出向き、寸劇も行うように。
- ・寸劇では、プラークに見立てたピーナツバターや発泡スチロールで作った歯の中にむし歯に見立てた黒いパンを詰め込み、着ぐるみを着たむし歯菌がフォークで実際に食べるようにした。令和3年度にはコロナ禍の歯磨き時の注意事項も追加。

<ポイント>

- ・歯科医師会と歯科衛生士会の協働の事業
- ・年長児に染色ブラッシング指導を加えたり、紙芝居の内容も随時見直すなど、園の要望により内容を更新しつつ継続実施。
- ・紙芝居は子どもの反応を見ながらアドリブで進行、言葉のキャッチボールでより子どもは印象、理解を深めている様子。

茂原市保健センター（千葉県）

モーバとラッシーの歯ッピータイム

<活動の概要>

- ・新型コロナウイルス感染症により保育所や小・中学校等での歯科保健指導が難しくなったため、パペットを使った動画を作成。
- ・当初は子ども向けにパペット活用を考えたが、現在は全ライフステージを対象とし、令和2年5月から令和3年8月までに40話以上の動画を作成。歯科保健指導や健康教育の場での上映のほか、市のウェブサイト、SNSでも配信。

令和3年度「健やか親子21-8020の里賞(ロッセ賞)」受賞団体

団体名	媒体名	媒体種類
<優秀賞>		
一般社団法人盛岡市歯科医師会 岩手県歯科衛生士会盛岡支部	「歯と口の健康週間」事業 幼稚園・保育園啓発活動	紙芝居、寸劇
茂原市保健センター(千葉県)	モーバとラッシーの歯ッピータイム	動画作成
南大東村保健センター(沖縄県)	歯っぴ〜歯みがき教室	エブロンシアター、 手づくり教材、ダンス
<佳作賞>		
伊豆市健康づくり食生活推進協議会	野菜が大好きになる野菜摂取向上戦略	手づくり教材、事業企画
<奨励賞>		
四街道市保健推進員(千葉県)	保健推進員食育劇	寸劇、人形劇
なめりかわ食育サポーターの会 (富山県)	お米はどうやって食べてみんなが食べる ごはんになるのかな	食材を含む市教材
学校法人聖テレジア学園 小さき花幼稚園(山梨県富士宮市)	「4つのおさら」を活用した食事バランス 及び食材を選ぶ力を身につけるための食育	寸劇、手づくり教材

<ポイント>

- ・新型コロナ対策としていち早く対応。
- ・パペットの材料は100円ショップで調達、パペットの制作、シナリオ、声入れ、動画の撮影、編集などすべての工程を職員が担当。経費をあまりかけずに制作。
- ・飽きずに見られるよう1本3分程度に。



茂原市のパペット モーバとラッシー

南大東村保健センター（沖縄県）

歯っぴ〜歯みがき教室

<活動の概要>

- ・3歳児のむし歯有病率が県平均よりも高いことから平成31年度より村の事業として実施。保育所入所児を対象とし歯みがきの大切さや正しい生活習慣をテーマに絵本の読み聞かせ、パネルシアター、ダンスなどを実施。
- ・月に1回保育所で教室開催、保健センター内に制作物を展示。
- ・令和2年度からは感染症対策を十分にしつつ、正しい手洗い法や生活習慣についてのダンスやパネルを用いた内容も追加。

<ポイント>

- ・保健師1名と母子保健推進員1名で実施。
- ・ダンスを取り入れるなど、子どもが楽しみながら学べるよう工夫。
- ・県平均より高かったむし歯有病率が低下、仕上げ磨きをする親が100%に。

PDCAサイクルを回して

佳作賞を受賞した「伊豆市健康づくり食生活推進協議会」が現在重点的に取り組んでいるのは「野菜摂取の向上」。以前は、教室の開催や会員が家庭で野菜を栽培していたが、コロナ禍となり、発想を転換。1日に摂りたい地産野菜を計量しオリジナル「野菜だいすき」ロゴ入りエコバッグに入れ子どもたちに持ち帰ってもらい、後日、家庭での調理の様子や料理の写真、アンケート、早寝早起き朝ご飯達成記録表を送ってもらう。それらをもとに、PDCAサイクルを回し、事業内容の検討や評価を行っている。

奨励賞受賞の「四街道市保健推進員」は、保健推進員による食育劇を平成22年から5つの地区ごとに人形劇や寸劇オリジナルの台本を作成し、幼児健診の待合時や依頼のあった保育園で歯科の健康教育と併せて上演。コロナ禍で上演が難しくなってきたからは、動画も作成。

「なめりかわ食育サポーターの会」では、平成22年より児童福祉施設の年長児を対象に、



保健師と母推さんが一緒に保育所を回り啓発を

座学に加え料理を通じた実践体験による食育活動として『キッズ料理教室』を開催。毎年度の初めに園児に伝えたいテーマを検討、決定し教材を制作、今回は米をテーマとした。米の成育の様子は写真や実物を用い園児に問いかけ、透明な鍋で米を炊き、その家庭を五

感で感じてもらった。

「学校法人聖テレジア学園 小さな花幼稚園」は、『4つのおさら』（栄養素の役割ごとに分けた4つの皿に着脱可能な布製の食材、シナリオをセットした市作成教材）を活用し、各色の衣装を着た元気ッズが幼稚園独自の歌に合わせて4種の役割を伝える。教室実施後は「4つのおさら」を掲示し、食材の働きへの関心、意識の向上につなげている。

副賞を有効活用、村の健康推進に一役

優秀賞を受賞した南大東村から、副賞の活用方法等について報告をいただいたので、一

部を抜粋して紹介する。

…本村は離島であり、限られた資源（人材、物）の中で事業運営を行っており、今回、優秀賞をいただいたことで「歯っぴ〜歯みがき教室」の取り組みの励みになりました。今回の賞を機に、今後も関係機関と連携しながら健康づくり事業を推進してまいりたいと思います。なお、今回いただいた副賞の5万円で歯ブラシを購入し、乳幼児、幼小中学生へ配布しました。また、キシリトールガムは、小中学生や保育所保護者、関係機関等へ配布し、大変好評を得ました。…

本事業は次年度以降も実施します。ぜひ貴自治体、団体の活動をご紹介ください。

## 健やか親子21全国大会「表彰状授与の会」開催

### 令和3年度 健やか親子21全国大会 (母子保健家族計画全国大会)



前列左から松本清美氏、三澤洋子氏、片岡弥恵子氏  
後列本会議原澤勇理事長、佐藤拓代会長

令和3年度「健やか親子21全国大会」で行われた式典では、長年地域で母子保健の向上、次世代育成に尽力されている個人、団体に対して表彰が行われたが、今年度はハイブ

リッド型での実施であったため、岩手県以外の受賞者に対してはオンラインでお名前を読み上げ、表彰状と記念品は後日実行委員会よりお送りさせていただいた。

本会議では、中央推薦として推薦させていただいた厚生労働大臣表彰、本会議会長表彰受賞の方々に表彰状等を直接手渡したいと12月24日（金）、東京にて「表彰状授与の会」を行った。

【厚生労働大臣表彰】(敬称略)

岡田寿朗（歯科医師）、松岡典子（助産師）、

三澤洋子（歯科衛生士）、松本清美（保健師）

【公益社団法人母子保健推進会議会長表彰】

俣野正仁（歯科医師）、上野昌江（保健師）、中板育美（保健師）、片岡弥恵子（助産師）。

当日は、厚生労働大臣表彰受賞の三澤先生、松本先生には本会議原澤勇理事長より、母子保健推進会議会長表彰の片岡先生には本会議佐藤拓代会長より表彰状と記念品が授与された。

令和4年度「健やか親子21全国大会」は、10月27日（木）・28日（金）、島根県民会館（島根県松江市）で開催する（COVID-19の状況により開催方法が変更になる可能性有り）。

お口の恋人  
**LOTTE**

むし歯のない社会へ。  
**ロッテ キシリトールガム**

もっとおいしく、歯を丈夫で健康に。キシリトールの世界が広がりました。  
大切な歯のために、キシリトール習慣！

消費者庁許可 保健機能食品(特定保健用食品) (公財)日本学校保健会推薦 (一社)日本学校歯科医会推薦

**食品初!** 日本歯科医師会推薦商品 **XYLITOL**

www.lotte.co.jp  
かんだ後は包んでくずかごへ。

紙上セミナー SEMINAR  
8020の里づくり

むし歯を考える

厚生労働省は5年に一度、わが国の歯科保健状況を把握し、今後の歯科保健医療対策を推進するための基礎資料を得ることを目的として、歯科疾患実態調査を行っています。前回、平成28年度の調査結果によると、80歳で20本以上の自分の歯を保つ8020達成者は51.2%になり、80歳の2人に1人は20本の歯を持っているという結果が出ました。一昔前の状況から見れば凄い結果ですが、平成30年度に行われた8020推進財団による永久歯の抜歯原因調査結果からは、むし歯、歯周病、破折により、多くの歯を失っていることも分かっています。

歯を失った状況

歯を失った状況として、むし歯については、歯根まで侵されてボロボロになってしまい修復が不可能であると診断され、抜歯されるに至ったと考えられます。歯周病については、病状の進行により歯根を支えている骨が失われてグラグラになり残しておくことができなくなった、破折については、歯が根っこまで割れてしまい抜いてしまうしか方法がなかったと想像できます。このような状態になる前になんとかならなかったのかといつも感じてしまいます。

そこには、自分が感じている体の状態(健康観)と実際の健康状態の間に大きなズレがあるのかもしれませんが、むし歯により歯に大きな穴が開いていたり、歯が歯周病でグラグラに動くようになっているのにもか

かわらず、「自分の口の中には痛みがないから健康だ」と感じている健康観。歯と口の健康づくりのためには、客観的に自身の口の中を知らなくてはなりません。健康観と実際の健康状態をできるだけ近づける必要があります。

むし歯はどうやってできるのか

むし歯について改めて考えてみましょう。『通常、口の中には様々な種類の細菌が数多く住んでいます。この中にはむし歯や歯周病の病原菌も含まれています。特にむし歯の病原菌としては、ミュータンス菌といわれるものがよく知られています。

このミュータンス菌は、私達が食事やおやつなどで摂取する食べ物や飲み物に含まれる糖분을栄養にして増殖し、その際に菌の周囲にネバネバのグルカンというノリのような物質を放出します。これによって歯に強力に付着して、そこでたくさんの細菌の集合体が形成されます(図1)。これが増えて歯の表面の白い汚れとなったものが、プラークというものです(図2)。また、この細菌は同時に乳酸も作り出します。そうするとプラークの中は酸性になり、接触している歯の表面のエナメル質は酸によって溶けてしまいます。この現象を脱灰とい

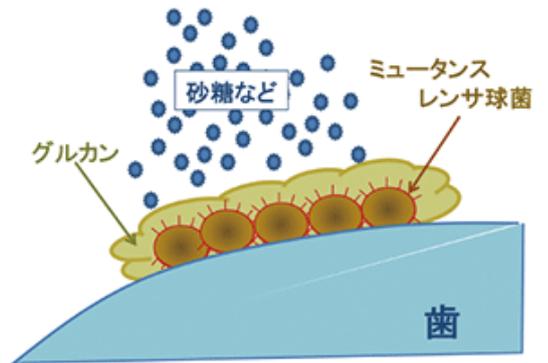


図1 ミュータンスレンサ球菌が歯に付着して糖분을栄養にして増殖しグルカンをつくる

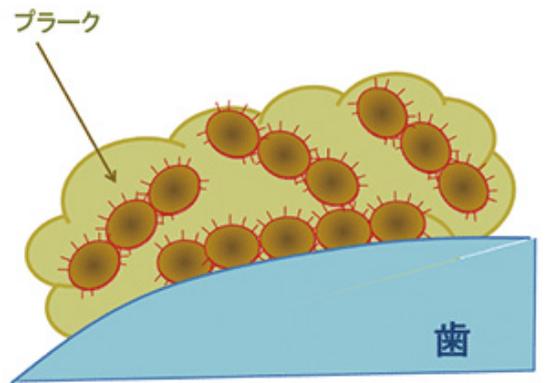


図2 さらに増えてグルカンに含まれた細菌の塊となりプラークを形成する

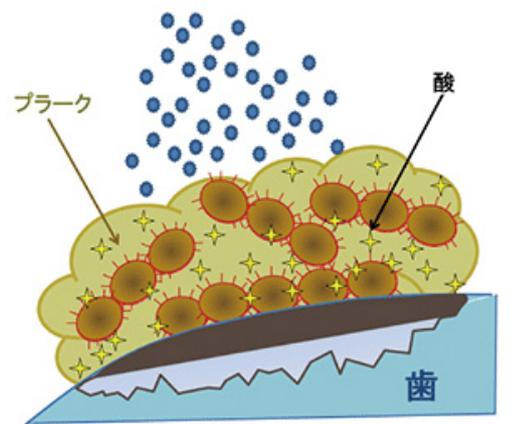


図3 砂糖をとりこんでプラーク中では酸が作られて、酸に接する歯にはむし歯ができる

います(図3)。この歯が溶ける状態がずっと続くと、ついには穴があいてしまっ、いわゆる「むし歯」ができてしまいます。こうなると、歯を削って治療する必要があります。歯に穴が開いた状態でもあまり痛

みを感じることはありません。そのまま放置すると、さらに歯の内部にまでむし歯は進行して、エナメル質よりも酸に弱い象牙質も壊れていきます。この時にも痛みを感じないことが多く、放置すると、その中にある歯髄という歯の神経や血管のある部分にまで細菌が侵入します。こうなると耐えがたい痛みが出たり、神経が死んでしまっ  
 て中で細菌が繁殖し、ついには歯の根っこの先端部分のあごの骨の中に細菌の巣をつくるようになります。あごの骨の中で炎症がひどくなると、顔全体が大きく腫れあがるようなこともありますし、熱が出たり、全身にも悪い影響が出ることがあります。  
 [日本歯科医師会ホームページ 歯とお口のこ  
 となら何でもわかる テーマパーク8020 「むし歯」(東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科う蝕制御学 教授 田上 順次)より転載]

これがむし歯になる大原則です。大切なことは、甘いものを食べたから穴が開くわけではなく、プラークがついたままで放置されていることが原因だということです。

### 対症療法と原因除去療法

人の歯は、削ったり抜いたりすれば、再生することはなく、二度と元どおりになることはありません。それであっても、痛みなどを抱えた患者さんの苦しみを取り除くには、削ったり抜いたりしなくてはなりません。そして詰めたり、被せたり、入れ歯を入れて元の形態に近づくよう直します。この処置は壊れたところを直す修理です。しかし、むし歯や歯周病の原因がわからなかった頃は、そのような修理(対症療法)であっても最高の治療でした。

しかしこの方法の欠点は、むし歯に何故なったのかという根本的な問題は解決されていないという点です。見た目がきれいに治っ

ても、しばらくするとまたむし歯になってしまうというのは、このあたりに理由があります。歯科医学の研究が進み、前述のようにむし歯になる原因もわかりました。原因がわかるようになれば、対症療法ではなく、「原因除去療法」といい、その原因を取り除くことが治療の基本となります。

原因である細菌の塊のプラークと戦い続けるための大切な武器となるのが、デンタルフロスと歯ブラシです。特に、デンタルフロスを上手に使うことが勝利への道となります(「8020ひとくちメモ」参照)。

### さいごに

多くの病気の治療において、患者さん本人が自分の病気をしっかりと知り、かかりつけのお医者さんのアドバイスを聞き、健康を取り戻すために自らが行動・実践する

必要があります。口の中についても同じで、むし歯の原因菌との戦いは長く、一人でむし歯を退治するのは大変なことですから、良い助言者になってくれるかかりつけの歯医者さんを持つことが大事です。そして、「敵を知り己を知れば百戦殆うからず」とあるように、ご自身の口や歯の状態がなぜそうなっているのかを含め、しっかりと知り、その原因を取り除くことが大切です。そして定期的に口の中の状態をかかりつけの歯医者さんに診てもらい、しっかりと良い状態が維持されているかを確認していくことが、未永く歯や口の健康を保つ鍵となります。8020は夢ではありません、頑張りましょう。

公益社団法人 日本歯科医師会

地域保健委員会 委員長 阪本義之

**8020**  
ひとくちメモ **デンタルフロス、使ってますか?**

使っていない方がいたら是非とも使ってほしいと思います。使い方がわからない?なら、かかりつけの歯医者さんで歯科衛生士さんに教わってみてください。歯ブラシでは届かない歯と歯の間に残ったプラークを取り除くことができるので、その清掃状態は格段に違うものと感じるでしょう。

誰がこのような清掃の方法を考え出したのでしょうか。1815年アメリカの歯科医師レヴィ・スピア・パームリーは、歯と歯の間をワックスを浸み込ませた絹糸で清掃することを勧め、世界中のどんな歯ブラシや歯磨き剤より疾患の予防につながると訴えました。デンタルフロスの歴史はここから始まります

が、広まることはなく一旦埋れてしまいます。約150年後の1947年、アメリカの病理学者チャールズ・C・バスが、予防・口腔内のコントロールのためには、歯ブラシとデンタルフロスですべての歯の表面からプラークを除去する必要があると、再度取り上げます。バス博士は、従来の絹糸よりも切れにくく使いやすいナイロン製のデンタルフロスを発明し、デンタルフロスが基本的な道具であり、歯ブラシはそれに付随するものであると訴え、デンタルフロスの重要性は一般に広まることとなりました。その後、デンタルフロスはさらに使いやすく改良され、現在に至るのです。

# 長引く新型コロナウイルス感染症は家庭にも～DV、虐待、女性の自殺の増加～

新型コロナウイルス感染症拡大による生活の変化や経済的不安、ストレスから、DV(ドメスティック・バイオレンス)の増加が懸念されている。

## 一見特に問題のない母親でも…

全国の配偶者暴力相談支援センターに寄せられたDVの相談件数は、2020年度は19万30件、2019年度の約1.6倍(図1)、全国の警察への相談件数は82,634件で過去最多となった。被害を受けた人の約半数は「どこにも相談していない」、相談した人の相談先では家族・親族がもっとも多く、次いで友人・知人であり、公的機関への相談は少ないことから、実際に被害を受けている人はさらに多いことが容易に推測される。

被害者の76.4%が女性であることから女性についてみると、結婚経験者に身体的暴行、心理的攻撃、経済的圧迫、性的強要のいずれかの行為(被害)を受けたことがあるかの問いに4人に1人が経験ありと回答、また 2019年1年間でDVにより死亡した

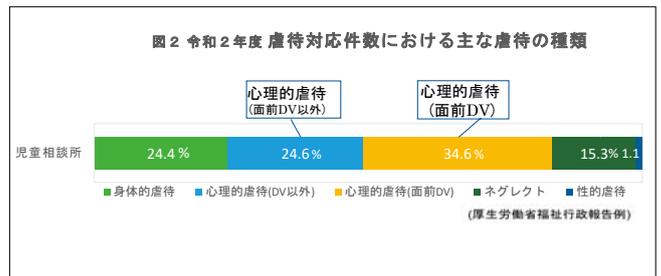
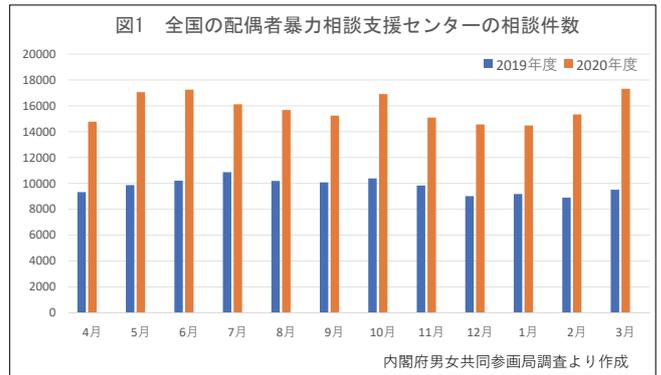
女性は42人(男性は11人、計53人)であった。

## 子どもにも悪影響、面前DV

子どものいるDV被害女性のうち3割は、子どもへの被害経験も認識している。

2020年度に全国の児童相談所に対応した相談件数は205,044件、相談内容でもっとも多いのが「心理的虐待」で121,334件(59.2%)、前年度から12,216件増え増加率ももっとも高い。心理的虐待のうち半数以上は「面前DV」であることから、DVは被害者本人の人権、健康、命ばかりでなく、子どもにも与える影響も大きく、関係機関、部署が連携し喫緊に取り組むべき課題と言えよう(図2)。

女性の自殺も増加している。2019年に



自殺した女性は7,026人、前年から15%増加した。自殺の理由について過去のデータと比較した報告によると、増加が目立つ女性の自殺理由では子育ての悩みがもっとも多く、次いで夫婦の不和、介護・看病疲れ、家族関係の不和と、家庭内に起因する理由が目立つ。保健と福祉、地域等が連携した重層的な取組が必要と考えられる。

# リフレッシュマクラス® ファシリテーター養成講座及び認定試験のご案内

本会議が平成16年から実施してきた「子育てピア支援者養成セミナー」、同セミナーのプログラムを改変し平成28年から実施している「子育て世代支援者養成セミナー」のいずれかを修了された皆さまに、ポストグラデュエイトコースのご案内です。東日本大震災後、子育て中の母親に対する被災地支援事業として実施し効果が実証され、他地域の母親に対しても効果を上げている「リフレッシュマクラス®」の実施者を養成、認定するものです。詳細は、本会議までご連絡ください。

E-mail bosui@bosui.or.jp / Tel 03-3267-0690

## 1) リフレッシュマクラス® ファシリテーター養成講座

**対象** 母子保健推進会議が実施の「子育てピア支援者養成セミナー」または「子育て世代支援者養成セミナー」のいずれかの修了者 等

**日時** 令和4年3月13日(日) 9:00～17:00・14日(月) 9:00～12:00

**方法** Zoomによるライブ配信 **受講料** 15,000円

## 2) リフレッシュマクラス® ファシリテーター認定試験

**対象** 1)の養成講座を受講し、主催団体のスーパーバイザーと連携してリフレッシュマクラス®を既に実施した市町村の保健師・助産師・保育士等 **受験料** 20,000円

**日時** 令和4年3月21日(月)までにスーパーバイザーと連携してリフレッシュマクラス®または同窓会を開催し、模擬授業を実施、DVDに収録送付し、判定を受ける。

**主催** 日本ピアカウンセリング・ピアエデュケーション研究会

**後援** 一般社団法人 日本家族計画協会(申請中) / 公益社団法人 母子保健推進会議

おれと  
ご報告

# 全国の乳児院で暮らす子どもたちに紙オムツを届けたい！



乳児院からいただいたカード

企業（メーカー）では、新しい製品ができると、それまでの型のものは廃棄処分となることがあります。昨年6月、本会議の賛助会員から、紙オムツが大量に廃棄処分になる、との情報を得ました。本会議では、これまでも全国の乳児院に紙オムツやおもちゃ等を寄贈する活動をしてきましたので、今般の紙オムツも活用いただけたらと全国の乳児院に問いかけましたところ、各サイズに多くのご希望をいただきました。

ところが、同社よりCOVID-19の影響もあり、オムツは提供するが配送料負担は不可との連絡があり、本会議では見積りを取る等試算したところ（全国の倉庫から本会議配送所まで+本会議から希望サイズを希望の数セットし全国の乳児院へ）、約160万円かかることがわかりました。年度途中のためそのような予算もなく、検討の結果、クラウドファンディングで寄付を集めることとし8月16日、本プロジェクト「全国の乳児院で暮らす子どもたちに紙オムツを届けたい！」のサイトの開設に至りました。

その結果、10月29日までの2か月半の間に、64名の方の温かいご理解、ご協力のもと、41万円の貴重なご寄付をいただきました。お名前を公表することにご承諾をいただいたのは次の方々です。

本事業に賛同しご寄付をいただいたの方々

- ・相田 善勝様 ・安保 信雄様
- ・飯塚 敦様 ・飯塚 隆志様
- ・今村 喜久子様 ・加藤 陽子様
- ・神山 久美子様 ・小林 晶様
- ・下村 昌作様 ・津田 孝之様
- ・鶴原 友里江様 ・吉村 恵子様

(50音順)

皆さまに心より御礼申し上げますとともに、お預かり致しましたご寄付は、全額紙オムツの配送料として活用させていただきますこと、ご報告申し上げます。全国の乳児院からは「コロナ禍で制約のある中ですが、子どもたちと一緒に頑張っていきます」などのお手紙や左のカード等多数いただきました。



乳児院でのオムツ替え

(平成30年度全国乳児院入所状況実態調査より)

## 令和4年度「児童福祉週間」標語決定！

# 見つけたよ 広がる未来とつかむ夢

子どもや家庭、子どもの健やかな成長について国民全体で考えることを目的に、毎年5月5日の「こどもの日」から1週間を「児童福祉週間」と定めて、児童福祉の理念の普及・啓発のための各種事業および行事が行われています(主催：厚生労働省等)。

令和4年度においても同週間を実施すべく令和3年8月1日～9月30日、標語の募集が行われた結果全国から4,299作品が寄せられ、有識者で構成される標語選定委

最近の乳児院は・・・

現在、全国に144か所ある乳児院では、家族や家庭に起因する何らかの理由により家庭で暮らせない新生児から未就学児まで約3,000名の乳幼児が暮らしています。

乳児院への新規入所理由でもっとも多いのが虐待で約4割、家族の精神疾患が2割、ほか経済的困窮や両親の離別、母親が未婚など。子どもたちの中には疾患や障害をもっていたり、家族との別れにより心が傷ついている子どももいます。そのような子どもたちに対して乳児院では、専門性の高い医療的ケアや心理的ケアを提供しています。

一方、乳児院から退所する子どもたちの行き先では、半数弱が家庭で引き取り、3割が児童養護施設等への措置変更、2割が里親・養子縁組となっています。

近年は、乳児院の役割も本来の乳幼児の養育に加え、家族への養育支援、被虐待児の保護とケア、里親とのパートナーシップ形成等、多様化してきています。

委員会による選考の結果、次の作品が最優秀作品に決定しました。

見つけたよ 広がる未来とつかむ夢

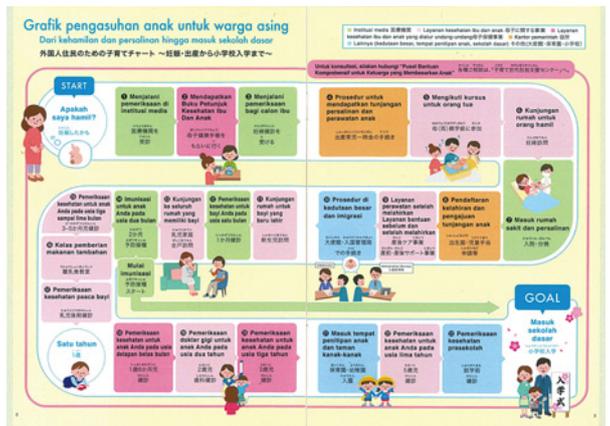
(愛知県 田中豪さん15歳の作品)

最優秀作品受賞者については、令和4年度児童福祉週間の関連行事の中で厚生労働大臣表彰が行われるほか、標語は令和4年度児童福祉週間の象徴として、中央および全国各地で実施される各種事業・行事で幅広く活用されます。

# 10か国語のリーフレットで日本での妊娠・出産・子育てを応援

全国の自治体では、さまざまな国からいらしている方への支援をされていることでしょう。今回は、母子健康手帳交付時などに手渡していただきたい10か国語のリーフレットのご紹介です。

A5判のリーフレットの表紙をめくると、まず出てくるのが妊娠から小学校入学までに妊婦さん、乳幼児に受けていただきたい母子保健事業や出産・子育てに必要な手続きなどを色分けをしてスゴロク式に表したものです。4～6頁で各事業等について説明、7頁は「救急車は無料です」「ひとりで抱え込まないで」などのメッセージ、8頁には予防接種の一覧を記載しています。



英語・中国語・韓国語・スペイン語・ポルトガル語・インドネシア語・ベトナム語・タイ語・タガログ語・ネパール語の10か国語に加え、支援者用の日本語版も作成しました。英語・中国語・韓国語版は1部180円

(税別)、他の言語はお問い合わせください。10か国語の母子健康手帳(省令様式・任意様式/令和元年度版)は、本会議サイトからダウンロードしていただくことができます。  
<http://www.bosui.or.jp/research01.html>

## 実際のセットを手にとってみてください！ 見本をお送りしています！！



ご好評をいただいている母子健康手帳交付時等に妊婦さんに手渡していただく「プレママ・プレパパさんへ“くまさんからの贈りもの”」について、実際のものを見てみたい、という声を多くいただきました。このたび期間限定、1自治体1セットに限り、送料含め本会議負担でお送りすることとしました。  
お申込みは令和4年3月31日までです。

## 編集帖



新型コロナの感染拡大が止まらない(1月下旬現在)。亡くなられた方、罹患された方に、お見舞い申し上げます。2年余前横浜港に停泊中の客船で感染が確認された頃、ここまで感染が広がり長引くと、また私たちの生活に、事業に影響があると想像していた人は少ないのではないだろうか。  
感染拡大とともに大きな影響を受けている経済活動では多くの業種、さらには打撃を受けている企業とともに事業を行っているところも大きな影響を受けている。

本会議では、賛助会員(企業)と協働の事業を長年行ってきているが、コロナ禍で中止となった事業が複数ある。12年実施してきたオムツとリーフレットのセットの配付、45年続いてきた健診時使用歯ブラシの配付と研修(一部)然り。事業のツールとして定着していた自治体も多く、再開を期待する声が後を絶たない。安心して生活でき、すべきことができる日のために、困難な時期があったからこれができるようになったと言えるよう、努めていきたい。(Y)

発行：公益社団法人 母子保健推進会議  
発行人：原澤 勇 編集人：鎌溝和子  
協力：全国母子保健推進員等連絡協議会  
東京都新宿区市谷田町 1-10  
保健会館新館 (〒162-0843)  
TEL.03-3267-0690 FAX.03-3267-0630  
Eメール bosui@bosui.or.jp  
URL <http://www.bosui.or.jp>  
年間購読料 2,640 円 (税干込み)  
母子保健推進員等特別価格  
年間購読料 1,320 円 (税干込み)  
郵便振替口座 00120-9-612578

